

# 木材ニュースレター

(財)日本木材総合情報センター  
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

## 木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(22年1月分)

1. 調査実施期間 平成21年 12月20日 ~22年1月10日

### 2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

1月分の回答企業数は41社、回収率は91.1%である。

### 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

### 4. 調査結果の概要

#### (1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		22/1月	2月	3月
仕入動向	国産材	△ 25.0	△ 14.1	△ 6.5
	外材	△ 16.7	△ 17.9	△ 9.2
販売動向	国産材	△ 26.6	△ 17.2	△ 3.2
	外材	△ 23.1	△ 16.7	△ 2.6
在庫動向	国産材	△ 18.2	△ 13.6	△ 14.1
	外材	△ 17.1	△ 13.2	△ 4.1

仕入は、国産材、外材とも先行きマイナスを縮めたが、回復の勢い弱い。販売は、国産材、外材とも先行きマイナス一気に縮め、漸く期待出てきた状況。

在庫は国産材が大きなマイナスほぼ横ばい、外材はマイナス大きく縮めて適正化しつつある。

仕入、販売、在庫とも3ヶ月の荷動き動向が、前月同様全てマイナスと弱含み膠着している。

#### (2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	22/1月	2月	3月
スギ正角(グリーン)	△ 4.8	△ 2.4	△ 2.5
スギ正角(KD)	△ 4.5	0.0	△ 2.4
ヒノキ正角	△ 2.1	△ 2.1	△ 2.2
ヒノキ土台角	△ 4.3	0.0	△ 2.3
米ツガ正角(現地挽)	2.2	2.2	0.0
米ツガ防腐土台角	0.0	0.0	0.0
米ツガ割物(現地挽)	6.8	2.3	2.4
米マツ平角	△ 2.2	0.0	2.3
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 4.3	△ 2.2	0.0
ホワイトウッド集成管柱	17.4	6.5	4.5
レッドウッド集成平角	10.5	5.3	0.0
型枠合板(国産)	△ 7.1	0.0	0.0
型枠合板(輸入)	△ 2.8	2.8	2.9
針葉樹合板	△ 2.8	5.6	5.9

スギ正角(グリーン、KD)、ヒノキ正角、土台とも小幅なマイナスまたはゼロで推移。

米ツガは各品目小さいプラス、ゼロと好調安定している。

米マツ平角も同様に回復基調になっている。

北洋アカマツタルキは小さいマイナス、ゼロと着実な推移である。

WW集成管柱、RW集成平角ともプラスを一気に縮めたが好調気配である。

合板(針葉樹を含む)は全品目マイナスからプラス、ゼロと漸く回復の歩みが本格化か。

1. 荷動き		コメント
仕入動向	米マツ一般材丸太では、米国材輸出価は12月も据え置かれた様子だが、カナダ材は伐採量が少ない上、中国向けも活発な事から再びオールドは値上げ、セカンドグロスも強含んでいる。米ツガ等丸太は中国・韓国の買いが強く、国内商社も中国・韓国向けの配船を増やしている。(東京:米材問屋)	
	久しぶりに今月入荷するため、やっと一息つける状況。(東京:米材問屋) 年末にかけて入荷あり、来月以降の仕入れは控えると思われる。大径木や特殊材は原木価格が高い。(東京:特殊材問屋)	
販売動向	1~2月は売上減少するので仕入れは当用買い。(東京:外材集成材問屋) 川上は強い価格を提示しますが、力不足で上昇には転じていません。(東京:外材問屋) 産地は2月の旧正月を前にして気分的に休み状態。ガボンの原木禁輸から南洋材産地に中国からの引合い多い。(東京:南洋・中国材問屋)	
	減らしたいが現地工場の都合もあり難しい。(東京:南洋材問屋) 現地からのオファー少なく、仕入に苦勞。(東京:米材問屋) 先行き不透明感強く、積極的な仕入れは難しい。(東京:国産材問屋) 原木安から製品の供給はかなり減少。良材製品の仕入れには苦勞する。(東京:国産材問屋) 当月はセールを行う関係で仕入れ販売はやや多くなる予定。荷動きはあまり良くないので販売にやや不安。プレカットはピークを過ぎてやや減少。(東海:外材問屋)	
在庫動向	京浜マーケットでは、問屋が輸出価アップ・フレート上昇を受けて販価値上げを打ち出しているものの、メーカー側の反応は鈍い。賃挽き、大手内地材製材メーカーの下請けに切り替える製材工場も多く、丸太消費量は伸びない。(東京:米材問屋) 入荷減のため販売は変わらず。(東京:米材問屋) 販売単位が極めて小さい。(東京:国産材問屋) 家具関連に力強さなし。(東京:国産問屋) 新規入荷品に対する引き合いは、大幅増加していて期待できる模様だが、販売価格面では厳しい。(東京:米材問屋) 最低限は確保出来ているが販売先の与信が難しくなってきた。低位横ばい。(東京:南洋材問屋) 急ぎの受注はあるが単価は厳しく産地価格の上昇分を吸収できない。(東京:南洋・中国材問屋) 建築材は全く売れず、店舗等の造作材が売れる。(東京:外材問屋) 構造材は全く動いていない。(東京:国産材問屋) 仕事がまだ本格的に始まっておらず荷動きは悪い。(東京:南洋・中国材問屋) 1~2月は売上が一番悪いと思う。(東京:国産材問屋) まとまった注文がない。(東京:国産材問屋) 在庫を持っている所が少なくなり、見積りは増加傾向。(東京:国産材問屋) 一段の悪化が懸念される。(東京:国産材問屋) 12月は早く終わり、1月は遅く始まる。悪いというより他に言葉なし。(東京:仲買小売) 未だ見通しなし。新年まだ仕事動かず。去年の住宅着工戸数80万戸割れで廃業者の続出か全て減少しての横ばい。(東京:仲買小売) 今年は特に年始のスタートが悪い。先が思いやられる。新政権賛否あるが、動き出し、景気が上向くことを期待し、当分見守るしかない。(東京:仲買小売) リフォーム販売部門で新築物件が増していることはよい傾向。反面取引先工務店の仕事の先行きは不透明。(東京:仲買小売) 昨年度後半と比べたら徐々に動き始めた感じ。(東海:仲買小売) 住宅着工件数も去年は80万戸割れ。販売も益々厳しくなるばかり。(大阪:仲買小売)	
	米マツ一般材丸太では、12月の本船入荷を受けて在庫は増加。旧材の出庫はメドがついたものの、在庫総量では積み増しとなった。(東京:米材問屋) 一時的に在庫積み上がるが大概来月中旬までに完売予想。(東京:米材問屋) 少ない。(東京:米材問屋) 3月末(決算)までに多少減らしたいが、無理かも。(東京:南洋材問屋) 出荷が少なく、在庫は増えている。(東京:南洋・中国材問屋) 在庫は減少傾向。(東京:国産材問屋) まだ下がりそうなアイテムもあるので、あまり積み増しは危険。(東京:外材問屋) 当用買いで在庫を減らす。(東京:国産材問屋) 当初の予定よりも入荷少なく埠頭の在庫も少ないまま。(東京:南洋・中国材問屋) KD材の増加により多少の日数のもちが良くなっているが、積み増す状況ではない。(東京:国産材問屋) 木が良くなったので在庫を増す予定。(東京:国産材問屋) 手当て予定なし。(東京:仲買小売)	
2. 価格動向		
スギ正角	グリーン材は殆ど無くなった。KD材が一段と増加の傾向。(東京:問屋) 構造材需要、回復見込み薄い。(東京:問屋) グリーン材は売れにくい。(東京:問屋) スギ、ヒノキとも原木は中目材中心に弱い。(東海:問屋)	
ヒノキ正角	需要回復見込みなし。(東京:問屋)	
土台角		
米ツガ	船運賃の上昇、円安を考えると今後は多少なりとも上がるか?(東京:米材問屋)	
米マツ平角	全く無風状態。益々売れ行き不振。(東京:問屋)	
北洋アカマツタルキ	スギ、ヒノキ、米ツガ、米マツともに特に動きなし。(東海:問屋)	
WW・RW集成材	管柱はメーカー強気だが売れず、価格は現状維持が精一杯。(東京:問屋) RWメーカーは強い価格を提示。上昇するには力不足。(東京:問屋) 1月より値上げの通達がメーカーからある。(東京:問屋) WW輸入品少なく品薄が続いている。国内産@1,600円/本以上。RWやや値上げ傾向だが当社仕入れは変化無し。(東海:問屋)	
合板	針葉樹合板依然として弱含み。@570~580円/枚。(東海:問屋) 問屋により価格の変動あり。(東海:仲買) 輸入合板入荷量大幅に減少。在庫は動かず価格設定出来ず。(東京:仲買)	